

なぎそ 議会だより

広報

議会だより

公民館報

令和5年9月定例会・全員協議会



議会の眼：

インパウンドの回復も徐々に。
旧中山道、上の原付近の風景。

議会だより目次

9月定例会は、9月13日から9月15日の3日間の会期で開かれました。また20日に全員協議会が開かれました。なお、今月号に掲載できなかった項目は次号に掲載を予定しています。

★9月定例会可決議案一覧……………19P

☆令和4年度決算認定……………20P

★一般質問…8人の議員が質問……………23P

☆木曽広域連合議会報告……………27P

☆令和5年9月補正予算……………28P

☆全員協議会（7項目を協議）……………30P

●証明書のコンビニ交付導入に伴う発行手数料減額措置について

※ほかの協議事項については12月号にて掲載します

☆委員会報告……………31P

☆松塩筑木曽老人福祉施設組合
議会報告……………32P

☆木曽郡町村議会議員総会報告……………32P

シリーズ「聞いて私の思い」………33P

北部地域振興協議会会長 谷口 洋さん

令和5年 9月定例会 可決議案一覧

予算関連議案		賛否
●令和4年度 決算	・令和4年度一般会計・特別会計歳入歳出決算書 ・令和4年度公営企業会計決算報告書 ・令和4年度主要事業成果報告書	審議内容 掲載P20 全員賛成
●令和5年度 補正予算	・一般会計の補正は2億1,358万2千円増額し、総額44億7,896万9千円となります。	審議内容 掲載P28 賛成多数
条例議案		賛否
●南木曽町博物館条例の一部改正について	・博物館法の一部を改正する法律に伴い、南木曽町博物館条例の一部を改正するものです。	全員賛成
専決処分事項の承認・報告		賛否
●南木曽町財政調整基金の処分について	・災害により生じた経費の財源に充当するため財政調整基金1,700万円を取り崩し、一般会計に繰り入れるものです。	全員賛成
●令和5年度南木曽町一般会計補正予算(第3号)	・7月1～2日の豪雨災害に伴う災害復旧事業を実施するため、一般会計を5,279万8千円増額し総額42億6,538万7千円とするものです。	全員賛成
●事故の和解及び損害賠償額の決定について	・地方自治法第96条第1項第12号及び第13号の規定により、事故による損害について和解し賠償するものです。	

議会の主な動き

(6月定例会閉会以降を記載)

6月	7月	8月	9月
19日 南木曽町地域公共交通協議会 木曽郡町村議会議長会 木曽郡消防ポンプ操法大会 日本で最も美しい村連合総会	3日 議会のあり方研究特別委員会 リニア新幹線対策特別委員会 中津川南木曽県際道路改修促進協議会 リニア中央新幹線対策協議会 長野県南部国道連絡会総会 総務文教常任委員会視察研修 議会運営委員会 木曽広域連合議会第1回臨時会 木曽郡町村議会議長会 長野県町村議会議員研修会 松塩筑木曽老人福祉施設組合 議会7月臨時会 南木曽町国民健康保険運営協議会 木曽地域治水対策協議会総会・学習会	28日 議会報編集特別委員会 (～30日) 1日 木曽郡町村議会議員総会 中津川・木曽下伊那広域連携SDGs推進協議会設立総会 (主)中津川田立線改良促進期成同盟会総会 県境近隣市町村議会議長会 南木曽町二十歳を祝う会 議会報編集特別委員会 木曽南部木曽川右岸道路整備促進期成同盟会総会 中津川市砂防講演会 国道256号改良促進期成同盟会総会 (主)飯田南木曽線改良促進期成同盟会総会 木曽南部直轄砂防推進協議会総会 木曽広域連合議会第3回定例会	27日 議会報編集特別委員会 (～15日) 13日 南木曽町議会9月定例会 6日 木曽地域治水対策協議会 県境近隣市町村議会議長会 ほか長野県要望活動 1日 議会報編集特別委員会 議会運営委員会 木曽地域治水対策協議会 木曽広域連合議会第3回定例会

決算認定審議

令和4年度決算を認定

※決算概要と監査委員による審査内容は広報2～6P参照

財源の問題

●計上経費充当一般財源

Q 計上経費に充当した一般財源が大きく増加している理由は。

A 令和4年度計上経費充当一般財源については、公債費は起債の償還額の増加、物件費は燃料高騰による光熱費の増加、補助金は広域連合分担金の増加などが主な原因となっています。

意見 電気代、燃料代はどうしようもない部分もあるが節約できるところは抑えていただきたい。

●地方交付税の減

Q 町の収入の7割を占める地方交付税が、

前年に比べ5千5百万円ほど減った原因は。

A 地方交付税は、コロナウィルス感染症への対応から国の財政支援が増大しました。結果として令和3年度の国の交付税額が手厚くなり、令和4年度は減額となりました。

●特別交付税の減

Q 4年度の特別交付税の減った原因は。

A 特別交付税は自治体の財政事情を考慮して国から配分されますが、令和3年度は大雨により町は大きな災害が続いたため、それに対する手当が4年度と比較して大きかったと理解をしています。

●ふるさと納税

Q ふるさと納税の実

績が過去最高の3千万円となっているが、選べる特産品が少ないとの声もある。

A 木工製品や食品が人気となっています。特産品の開発を実施しており、今後も研究・開発を検討します。

●財政運営の考え方

Q 今までの慣例を脱却した経営といった観点から町を運営するという考え方はないか。

A 町では実施計画を作成の際は、企画会議で財政の将来を見通しながら計画を策定しています。

地方交付税は、人口減少とともに交付額が減っていくので、今後は、町全体の事業収入を含め、歳入歳出のバランスをどう取るのかといったことを議論していきたいと考えます。

意見 地方交付税だけに頼ることなく、町の収入をいかに上げていくか、ふるさと納税や、

リニアを活用した産業や観光の育成といった視点などをもっと取り入れてほしい。

●財政調整基金の規模

Q 財政調整基金は、平成29年から順次増え9億6千万円近くある。地域の要望実現などに使えないか。

A 一般的に財政調整基金は、自治体の標準財政規模の1割から2割程度が妥当と言われています。

今年度も既に8千7百万円の取り崩しを見込んでおり、標準財政規模の2割程度となる5.6億円を維持するには8億円程度の基金残高は必要と考えています。

地域要望に対しては歳入歳出のバランスを見ながら事業化していく姿勢です。

●電算化事業費の増

Q 電算化事業の費用は年間6千7百万円で

年々増えている。今後の見通しは。

A 町の電算システムは一定の完成の域に達しています。現在、国では基幹システムの標準化、共同化を進めており、システム導入や切り替えといったときには導入経費やランニングコスト等が増加すると予想されます。

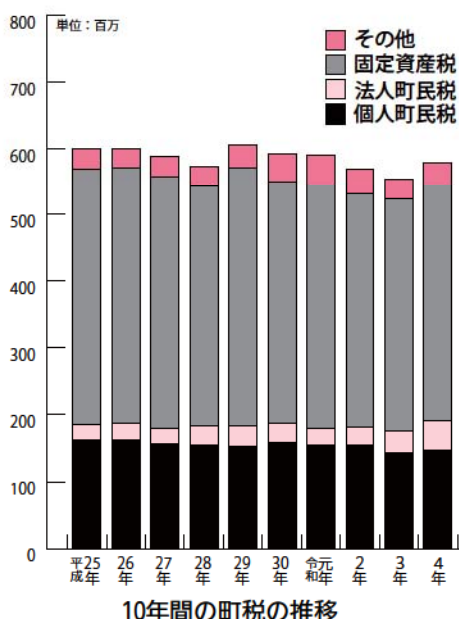
人材・システム管理など

●システム管理の人材
Q システムの標準化も含め業者に委託し、

サービス向上とは言うが、その一方で個人情報といった間にか使われてしまう懸念がある。情報管理など職員の中にシステムを理解した人材が必要ではないか。

A 電算システムの細部まで理解をし、チェックを行える専門の職員はいません。ただ、広域連合には一定の専門知識を持った職員がおり、自治振興組合という県内の電算共同化を進めている団体とは相談できる体制になっています。

意見 情報を保護して



いくと同時に活用していく課題もあり、町の人材を整えていくことが必要だ。

●告知放送の今後

Q これから告知放送をどのようにやっていくのか。

A 基本的に放送内容は精査し、短時間でも住民にわかりやすい運用をしていきたいと考えています。

要望 緊急性のあるものはSNSで発信したかどうか、検討を望む。

●自衛官募集の名簿提出

Q 自衛官募集での、町の対応は。

A 自衛隊の募集事務への協力では、現在は紙媒体での名簿提供を行っています。

意見 自治体が名簿を提供することにはいろんな意見があり慎重にやっていただきたい。

●入札問題の状況

Q 入札の問題はどうなっているのか。

A 昨年10月に新聞報道されてから、入札制度の改革等で議会でも説明してきていますが、新聞事案については、何ら情報はないというのが現状です。

地域振興関係

●地域要望の実現は

Q 地域振興協議会からの地域要望が430項目ほどで年間の実施は、そのうちの20件ぐらいだ。地域要望がなかなか実現していない状況も成果報告に示せないか。

A 実施計画の計上の元となる大元の一つの要素が地振からの要望であり、要望事項を精査してできるだけ組み入れていくという姿勢で対応しています。要望に対する回答と実施計画の連動を表現するのは、困難な部分もある

と感じています。

●交通弱者対策とデマンドタクシー

Q 交通弱者対策は、路線バスに代わるデマンドという考え方だけではなく、福祉の面からも考えていく必要があるのではないか。

A 交通審議会の中でも、公共交通の確保なのか、または福祉なのかはまとまっていないのが現状です。

Q 送迎はホームヘルパーも「おたすけ隊」もできない。今年度新規スタートするデマンドタクシーは自宅からバス停までしか乗れないのでは今までの乗合タクシーと変わらない。

A 大桑村では村内はどこへ行くのにもデマンド、村外はバスというように、10年かけて改良を重ね今に至っている。

きません。一緒に良い方法を考えていただきたいと思っています。

●リニア工事のリスク

Q リニア工事に伴う住民リスクに対しては、低減だけではなく、不安の解消や影響の回避まで含むのではないか。

A リスク低減だけではなくリスク回避についても話をしており、表現は考えたいと思います。

●移住事業

Q 令和4年度の実績で、木曽広域連携事業により町への移住が1件実現したとあるが。

A 広域連携事業で実施した「オーダーメイドツアー」（注1）により、5組が来町し、広瀬地域の空き家に1家族3名の移住が実現しました。

で視察場所を決定し実際に訪れるというツアー。

意見 南木曾町を気に入って移住される方がいるので、継続した活動を願いたい。

●空き家対策

Q 空き家が増えていくが、空き家バンクへ登録してもらうための対策は。

A 毎年、納税通知書に空き家バンクのお知らせ等を送付し、登録を奨励しています。利用については、地域おこし協力隊が積極的に対応しているため、問い合わせもあり現地見学に訪れる方も増えています。

Q 町外の空き家所有者へ、取り壊しの補助を出すような考えはあるか。

A また、リフォームした空き家での移住体験をしてもらうような施策は考えないのか。

A 取壊し補助金や、空き家を利用した移住体験については検討します。

●野菜自動販売機

Q 野菜の自販機は3か所に設置されている場所でも成果が違ってくるが、妻籠宿の駐車場など設置場所の変更等考えているか。

A 現在、設置場所については検討中です。

意見 補助金で始めたこと、課題はあると思うがやり続けることが重要だ。

医療福祉関係

● コロナの検査キット

Q コロナ感染症用の抗原検査キットを350回分購入している。使用期限は。

A 検査キットは現在180個ほど残っています。2年ほどの長期間使用でき、職員の感染が疑われる場合など

に活用しています。

●特別障害者手当

Q 特別障害者手当は町内でも複数の方が支給している。この手当は一定の制限はあるが在宅で要介護4、5の方が対象となるようだ。町内の該当者はどのくらいか。

A 在宅の要介護4、5の方は17名把握しています。当該手当に該当すると思われる方には、ケアマネージャーなどが訪問時に情報提供しています。

●子どもの医療費無料化

Q 県内では子どもの医療費窓口無料化が実施されているが、町では多くが他県で受診し還付申請している。県外受診の割合は。

A 県外受診者は6割を超えています。

Q 郡内ではレセプト(注2)個人負担分を町

村が負担し、実質的に子どもの医療費が窓口ゼロの自治体も増えている。レセプトの子どもの年間件数と、町が補助した場合の町負担額は。

A 年間4800件ほどで補助した場合は140万円くらいになる見込みです。

(注2)レセプトとは「診療報酬明細書」のこと。医療機関から健康保険組合に請求する医療費の明細書。

建設環境

●上下水道事業会計

Q 令和4年度の給水人口が前年度より92人減少している。施設及び水道管等の老朽化に伴い、経費は益々増大する。水道料金の値上げや一般会計からの繰入になるべく頼らずに運営する方法を考えていく必要がある。

A 収入を上げる方法として、料金改定も含め審議会で検討する必要がある。

要があると思います。老朽化している施設の統合、リニア事業を見据えた取り組み等も考えながら検討していきたいと思っています。

Q 企業会計に移行して、経営分析がより緻密になったというが、料金回収率の低さなど以前の特別会計と同じではないか。また老朽化している施設をどうやって維持管理するの

A 現状の料金では必要な経費は賄えていません。今後は機器の更新等もありますが、極力経費を抑えながら計画にしたがって経営したいと思っています。また簡易水道の所管が国土交通省に替わるので、改善に対する補助金の充当を要望していきます。

要望 水の問題は生活環境の基本的な問題である。赤字分を、単純に料金の値上げや、一般会計からの繰り入れ

等で補うだけの対策でなく、長期的な経営戦略を立て、審議会での議論も含め将来に向けて真剣な対策を求める。

●町道基準の見直し

Q 4年度に町道の総延長が40m増えている。地域要望には新設は無理というような回答や、農道からの格上げは道路構造が違うから無理という回答もある。

A 町道の構造技術基準により、町道として管理が必要であるという場合には格上げを検討したいと思っています。基準の変更、見直しは検討している状態です。

Q 実際の生活道路である農道などは改修が進まず困っており、町道にすると改良なども予算化されやすい。早く検討できないか。

A 町内の状況を見ながら検討は進めていきたいと思いますが、す

ぐにということではありません。

要望 町道以外の生活道路で使用頻度の高いようなところは、町道という枠の中でなく、優先順位の高い事業として整備を求める。

教育

●学校でのICT教育

Q タブレットや電子黒板による授業成果は。

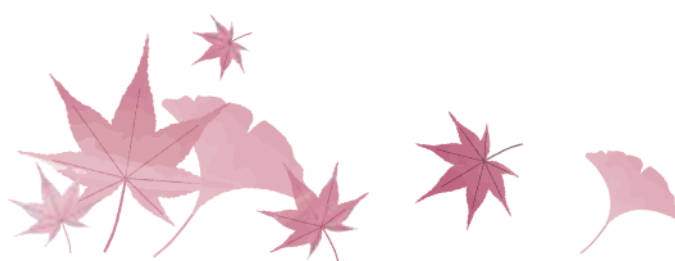
A 個々にタブレットを配布しICT教育(注3)を進めています。電子黒板を使用した授業では、児童・生徒は興味を持って積極的に受けています。

Q AI(注4)に対してはどう対処しているか。

A 県教育委員会でAIの活用について検討しており、考え方が示されるとしています。それを踏まえて検討します。

(注3) ICT教育とは、

今まで黒板やプリントなどのアナログで行っていた教育を、タブレットや電子黒板などのデジタル機器等を活用して学習する教育の総称。
(注4) AIとは、人工知能のこと。人工知能が人間の言語を理解したり、論理的な推論や経験により学習を行ったりするプログラム。





9月定例会

8人の議員が一般質問



◆高橋 進 議員

- ・町長選について
- ・地域振興協議会からの要望について

◆近藤 隆 議員

- ・南木曽町の景観をどう守るか

◆赤坂 孝 議員

- ・役場職員の早期退職と人員配置について

◆早川 親利 議員

- ・住み込みインターンシップについて

◆田中 晃 議員

- ・中津川・木曽下伊那広域連携SDGs推進協議会発足について
- ・大桑村との連携を

◆矢澤 和重 議員

- ・区の統合どうする
- ・特定空き家の対策は

◆伊藤 寿子 議員

- ・住民サービスのさらなる向上を

◆坂本 満 議員

- ・リニア工事での環境保全は

※一般質問の質疑内容は、各議員の編集を基本にして構成しています。

町長選について

Q 早いもので来春には町長、議会の改選期を迎え、我々議員もまとめをする時期となる。

町長におかれては町のトップとして全力で町政を運営されてきたが、その中で思い出に残る事業は何か。

A おかげ様でもう少しで2期8年が過ぎようとしています。それぞれに思い出されることがありますが、特に平成26年の梨子沢災害の復興がされ、その後大きな災害が無かったことなど、町民の皆さんの協力でこま

でこられました。保育園のこども園への統合、町観光協会の法人化、妻籠町並み交流センター建設、子育てへの町独自の助成、リニア関連事業など多くの事業にあたってきました。残された任期まで全力で頑張りたいと思っています。

Q 心残りと思っていることは。

A 人口減少への対策、故郷へ帰る、南木曽へ住みたい人たちの応援などが不十分だと感じています。

若者が活躍できる場の構築、リニア開業後の利活用を見据えた町づくり、木曽川右岸道路の早期開通などはまだ道半ばな面が多くあります。

Q それをふまえ3期目への出馬は。

A 来年度以降も町長の任を担えるよう、町民の皆さんの理解を得られるよう、準備を進めていきたいと考えています。

地域振興協議会からの要望について

Q 各地振から多くの要望が出されているが応えられていない。どのように調査しているのか。

A 出された要望は各課で確認、現地調査をし、回答しています。優先順



高橋 進 議員

位をつけ対応しています。

Q 国、県との関係は。住民、議会の声は届いているのか。

A 担当課で判断して、それぞれの関係機関に要望を出しています。

Q 要望案件は地区から請願陳情として提出した方が早く解決するか。

A 地振から提出されたものも同じ扱いとなります。それぞれに対応したいです。

Q 要望していた所で事故等が発生した場合は。

A 状況の判断を行い、対応したいです。

要望 安心で安全な町づくりを求む。

南木曽町の景観を どう守るか

「日本で最も美しい村」として

Q 南木曽町は平成20年に連合へ加盟して15年が経過したが具体的な町の活動は。

A フォトコンテストなどによる広報、観光イベント、スタンプラリーによる集客や名古屋での観光物産展を行い町のPRに務めています。

Q 連合に加盟している効果はあるか。

A 同じ考えを持つ町村がまとまってイベント等を開催することで、より多くの人との交流によるPR効果が大きく、また、他地域の先進的な取り組みを学ぶことができます。

Q 町の景観維持についてどう考えているか。

A 妻籠宿については妻籠宿保存条例で面的に守られており、中山道、与川道については文化財であり歴史の道中山道とし

て線的に守られています
が、その周辺景観までは
厳しい規制はかけていま
せん。

大型建築物の設置は

Q 太陽光発電施設を町内の林地等へ建設する場合の規制は。

A 林地にかかわらず、抑制区域以外の場合において、事業区域が500㎡を超える場合は協議の届出が必要です。

Q 地元の同意の必要性についてはどうか。

A 届出には住民説明会の開催で住民等の理解が得られるように努める必要があり、届出書には区長の確認も必要です。

Q 令和3年度から始まった三留野地区の鉄塔工事には、議会から事業者に鉄塔を景観色にして
できるだけ目立たないよう
に要望したが、法的に
問題がないということ
で塗装はできなかった。
今後、このようなこと
がないように町独自の南



近藤 隆 議員

木曽町景観条例の設置が必要では。

A 町村単独では事務処理が大変であるため、木曽地域で広域的に考えていく必要があります。引き続き景観条例の必要性については注視していきます。

意見 近年、人口減少と高齢化により耕作放棄地も増え景観に影響がでてきているので、農業への支援もお願いしたい。

太陽光発電施設や鉄塔のような大型建築物の設置には、観光地であり、歴史的な自然環境が残る町でもあるので、住民意見を十分取り入れた中で進めていけるよう条例整備を要望する。

役場職員の早期 退職と人員配置に ついて

Q 早期退職の原因は何か。

A 近年、若手職員の退職が続いていますが、それぞれ理由や事情があったの退職です。

Q 退職させない対策はしているか。

A 職員との意思疎通を図りつつ、働きやすい職場づくりに努めています。

Q パワハラやセクハラなどの実態を把握しているか。

A ハラスメントに限らず、職場における人間関係の悩みなどについては、総務課が相談窓口となっています。実態調査まで

は行っていないませんが、本人や周囲の職員からの相談に応じる体制をとっています。町にはセクシャルハラスメントについての苦情処理規程があり、基本的には総務課が相談窓口として対応しますが、必要に応じて職員で構成する委員会に対応する

場合もあります。

Q 予防のための庁内ルールなどはあるか。

A 庁内ルールは特段ありませんが、今後、状況によっては考えたいと思っています。

Q 職員研修の状況はどうなっているか。

A 福利厚生としての研修旅行の実施や、県の研修センター等による各種研修の受講などに取り組んでいます。

要望 ハラスメントがない職場づくりをしてほしい。

Q 適正な人員配置がなされているか。肉体面や精神面でハードになっていないか。

A 人員配置については、業務の状況等を見ながら、適正配置に努めており、人事評価による職員面談でフォローもしています。メンタルヘルス対策として全職員を対象にストレスチェックを実施し、必要に応じてカウンセリングも行っています。



赤坂 孝 議員

Q 業務のマンネリ化や後進育成の停滞、取引先との癒着なども考えられるが、人事異動の状況はどうなっているか。

A 職員に多くの職場経験を積ませることも目的に3年から5年を目安に異動を行っています。

Q サービス残業、時間外勤務の事前通知はどうなっているか。

A 時間外勤務は、業務の必要に応じて課長の命令により行われます。基本的にサービス残業はないものと考えています。

Q 時間外手当の支給はどうなっているか。

A 時間外勤務を行った場合は、手当を支給しています。

休日出勤は代休取得が原則ですが、取得できなかった場合は手当の支給となります。

住み込み インターン シップについて

ではコロナの関係で中止になっていましたが、募集は4月頃に行い8月から実施します。

Q 住み込みインターンシップはどのような事業内容か。

A 中京の大学×木曽住み込みインターンシップ事業です。

木曽地域での就業体験を通じて職業意識の向上と木曽地域の魅力を知る機会として、研修先・宿泊施設・食事等を学生に提供します。

Q 事業を実施する予算はどうなっているか。

A 対象事業費の半額が県補助金、残りは町負担です。

Q この事業に参加するには、どうすればよいか。毎年実施しているのか。

A 長野県のホームページ、長野県古屋事務所などから中京圏の大学へ募集をしています。

平成29年度から開始し、令和元年まで実施しました。令和2年から4年ま

Q 受け入れ企業の募集はどのようにしているか。

A 町では、企業への募集と、個々の企業への声かけを行っています。

Q 今年度の実施状況は。

A 木曽町1名、上松町5名、大桑村2名の応募がありました。

南木曽町は平成29年から令和元年まで募集し、30年度に5人の応募がありました。

Q 今年度来ている人は、どのような職種を研修しているのか。

A 木曽町は木曽おもちゃ美術館へ1名、上松町は観光協会へ1名と地域おこし協力隊へ4名、大桑村は観光部門へ2名参加しています。

Q 平成29年から6年間実施しているがその結果は出ているのか。

A この事業の研修者で



早川 親利 議員

木曽へ就職した人はいないようです。

Q 実績が上がっていない原因等の把握は。

A 研修終了後のアンケート結果では、「①車がないと何もできない。」「②虫が多くて大変だ。」「③インターネットのつながりが悪い。」等の原因があったようです。

Q 町で募集する計画はあるのか。

A 町は名城大学・名古屋外国語大学と個別に協定を結んでおり、町単独で、事前研修3日程度、本研修で7日程度のインターンシップを実施したいと考えています。

中津川・木曽下伊那 広域連携SDGs推進 協議会発足について

Q 中津川・木曽下伊那広域連携SDGs推進協議会が発足した。南木曽町にとって、中津川市や阿智村との連携を図る上で大変に重要な協議会となると思われる。協議会発足の目的と経緯は。

A 中津川市とは大変重要な交流関係があると承知していますが、行政区が異なるため、深い繋がりを持てないでいました。今回、中津川市長の働きかけにより広域連携を組むことができました。

目的は、SDGsを切り口に、中津川市・阿智村・南木曽町を含む木曽6町村が共通して持つ、「森林資源や歴史文化遺産等」を地域で有効に活用し、国内外からの観光客等呼び込み、連携地域が持続的に発展していくことと考えています。

Q 最初に取り組む事業として、「リニア新幹線

の開業に備えた観光振興」とあるが、具体的に

A 第1回協議会において令和6年度事業として「リニア時代に備えた持続可能なスローツーリズムの構築」が示され、協議会に作業の推進に当たる「広域観光部会」が設置されています。

要望 広域連携では、会長に青山中津川市長、副会長に向井町長が選任された。町にとって、中津川市は最重要パートナーであると考えられる。向井町長には強いリーダーシップを発揮し、南木曽町の利益につながる活躍を望む。

要望 南木曽町のような小さな町では、財政的にも人材的にも資源に限られる。中津川市や長久手市のような大きな街の力を借り、関係性の深い他町村としっかりスクラムを組んで、町の発展の為に努力することを望む。

大桑村との連携を

Q 大桑村との連携も重要である。近年「中水道と川道」を歩く外国人が多い。南木曽町側は史跡認定を受け、かなり整備されているが、大桑村側の対応が不十分だと感じる。また柿其深谷と阿寺

の開業に備えた観光振興」とあるが、具体的に



田中 晃 議員

深谷には、この夏沢山の観光客が訪れていたが、南木曽町側の対応が不十分だと感じた。

以前大桑村との連携で行っていた恋路峠での活動も休止しているように思う。これらの事例を見るに、大桑村との連携を強化する必要があるが、どうか。

A 現在、大桑村と連携している事業はありませんが、多くの観光客が訪れており、事故の防止等も含め、大桑村との連携を考えたいと思います。

要望 南木曽町のような小さな町では、財政的にも人材的にも資源に限られる。中津川市や長久手市のような大きな街の力を借り、関係性の深い他町村としっかりスクラムを組んで、町の発展の為に努力することを望む。

区の統合について

Q 人口減少により、区の維持が厳しくなっている区がある。区の統合等について町の考えを伺う。

A 区の統合につきましても、町としても課題であると感じております。ここ何年かで統合された区もあります。

町から統合について提案をさせていただいたこともありますが、それぞれの区には歴史があり、事情もあるので、一緒にというのは、実際にはなかなか難しい状況であると感じています。

特定空き家の対策は

Q 人口が減少して区の統合となると空き家が増加すると思われる。空き家対策は町も色々と努力していると思うが、特定空き家等についてはどう考えているか。

A 特定空き家等というものとは準特定空き家等というものが区分されていますが、町には特定空き家等はありません。準特定空き家等は、3軒が該当しております。

Q 各区の今までやってきた歴史、様々な理由によって統合したいができない課題があるかと思う。

A 令和3年に各区長を対象にアンケート調査を行いました。49件ほどの回答の中で、統合については22の区が現状のまま、12の区が10年先、8つの区が5年以内との回答でした。



矢澤 和重 議員

最終的に区の統合については区同士の合意によるものと考えていますが、統合に関する相談には応じていきたいと考えています。

A 普段は町に住んでいない方への取壊しに対する助成制度になります。

補助や事業の枠組みについての調査・研究をする必要があり、また、他市町村の実施状況などを確認しながら検討を進めていく必要があると考えています。

要望 空き家を利用できないに越したことはないが、どうしてもない場合には力を貸していただける政策があってもいいと思う。今後の調査・研究を要望する。

住民サービスのさらなる向上を

「なぎそおたすけ隊」の現状と課題

Q 令和5年度の「地域生活支援合い担い手研修会」が8月から12月まで計5回の日程で始まっている。現在の利用会員・協力会員の登録者数、また内容は。

A 「おたすけ隊」は、ちょっとした困りごとを地域で支える仕組みが作れないかということで、平成28年に社協の事業として始まりました。

事前に利用登録をした概ね65歳以上の方、子育て中の方、障がいのある方に対して、1時間500円で協力会員がお手伝いに伺います。

令和5年8月現在の利用会員は74名、協力会員は97名です。

Q 今後は益々必要になる事業だと思う。

A 協会の平均年齢も72歳と高齢化しており、若い世代への周知や、活動する協力会員が登録者全体で平均的になるような仕組みが必要ではないか。

A 社協でも多くの皆さんに知って頂く場を設けたいとの意向があり、町としても協力したいと思っています。

また、多くの協力会員が活動できるように調整しています。また、それぞれの都合もあり、協力会員の活動に偏りが生じています。今後の課題かと思

います。

デマンドタクシーの利便性を

Q 利用会員が望んでも、「おたすけ隊」ができないことに車の送迎がある。デマンドタクシーが現在与川地区と北部地区で運行されており好評と聞か

が、今後の計画は。

A 10月以降に蘭・広瀬・田立線の乗合タクシーをデマンド化する計画です。

Q バス路線のある所は、自宅からバス停まで、



伊藤 寿子 議員

これまでとほぼ変わらない計画だが、必要な人手が届くように、もっと利便性を考えられないか。

A 現状ではタクシーを駅まで運行すると二重の経費がかかります。地域交通の仕組みや、これからの様子を見ながら検討していきたいと考えています。

住民に喜ばれるサービスを

Q 町にある温泉施設の好意で一部地域の高齢者に施設の割引券が配布されてい

ておりありがたい。一般住民向けにも町からの補助等考えられないか。

A まずは温泉施設との話し合いが大事かと思ひますので確認のうえ検討したいです。

リニア工事での環境保全是

蘭川への影響、漁協等との協議は

Q 尾越工区のトンネル湧水は全部が岐阜県側に出る。湧水への対応は。また、蘭川への工事処理水や減濁水の問題で、漁協等との協議は。

A 水問題では観光に影響がないようにするとの返答がJR東海からきています。漁協等との協議は確認していません。

盛土条例において住民の意見の反映を

Q リニア計画は開業の見通しも示さず工事を続けているが、公共工事であれば異常な事態である。リニア工事の残土処理では、県の盛土条例で許可申請書に対する町長の意見が求められるが、ここで住民意見は反映されるのかどうか。

ベルトコンベアは尾越工区で昼夜稼働

Q 尾越ではベルトコンベアを使う。騒音や振動、粉塵の問題を含め、新しい環境の問題がある。

A ベルトコンベアは昼夜使用し、仮囲いの設置などの環境保全措置を実施するという説明です。騒音で眠れないなどが起こらないように求めています。

A 認可に際して工事に伴う安全性や地元へのリスクなども勘案した上で、意見書を書くことになりませんが、対策協議会での意見、専門家からのアドバイスも参考に判断する考えです。

さらに一般からの意見があるようであれば、町の意見としてではなく付帯事項として上げることが考えられるかと思えます。



坂本 満 議員

災害要因となる盛土計画には反対

意見 工場跡地の盛土計画が示されたが、沢地形を埋めた高さ10m以上の古い盛土を含め検討の詳細が不明である。災害の要因となる可能性があり計画には反対である。

火災情報は的確に

Q 火災の情報について、木曽広域消防本部の広報規定があり、個人のプライバシーの問題があるが、地域住民の不安や社会に重大な影響を与える場合には適時広報できるのでは。

A 消防本部では今年度と同報無線の起動装置の更新工事が予定されており、その中でよりわかりやすい放送への検討が進められています。

報告 木曽広域連合議会

8月31日に開催された第3回定例会の主な内容は次のとおりです。

- 令和5年度一般会計補正予算（第3号）
1,855万3千円を増額し、総額は47億8,581万9千円。
- 令和5年度介護保険特別会計補正予算（第2号）
1億2,165万2千円を増額し、総額は42億2,273万2千円。
- 木曽広域連合公の施設に係る指定管理者の指定
令和6年4月から養護老人ホーム木曽寮の維持管理、運営及び警備業務を、社会福祉法人木曽社会福祉事業協議会が指定管理者として行うことを決定。
- 木曽広域連合火災予防条例の一部改正

- 公共下水道事業における資金不足比率の報告
令和4年度決算に基づく資金不足比率を算定した結果、資金不足はないとの報告がありました。

全員協議会

◇消防通信指令システムの共同運用

・木曽広域連合と南信州広域連合との消防通信システムの共同運用に向け令和5年9月11日に協定書を締結し、令和8年4月の共同運用開始に向け計画策定や運営団体設立準備などを進めることが報告されました。

◇木曽寮の移転改築工事の工期変更

・建物工事では、基礎地盤の巨石処理で工期が遅れ、工事完成は10月予定から12月末に変更になりました。開設の予定は令和6年4月です。

令和4年度木曽広域連合 各会計歳入歳出決算				(単位: 円)
	歳入決算額	歳出決算額	繰越金額	実質収支額
一般会計	3,983,775,872	3,840,281,554	73,138,000	70,356,318
介護保険特別会計	4,012,741,526	3,903,752,022	0	108,989,504
総計	7,996,517,398	7,744,033,576	73,138,000	179,345,822

令和4年度木曽広域連合 下水道事業会計歳入歳出決算				(単位: 円)
収益的収支及び支出	予算現額	決算額	増減又は不用額	当年度純利益
下水道事業収益	114,539,000	114,544,059	5,059	5,012,187
下水道事業費用	114,539,000	109,531,872	5,007,128	

補正予算審議概要

令和5年9月補正予算（一般会計、特別会計、事業会計）が審議され、可決されました。補正予算概要を表に示し、審議の主な質疑を掲載します。

● リニア活用検討委員会
の立ち上げ

● リニア活用検討委員会
の内容は

● 町が作成したリニア新幹線活用基本構想を、より具体的に進めることを目的とする検討委員会です。

● この委員会はいつ頃から始め、メンバーは

● 早急に立ち上げ、地域の方・関係団体・学識経験者等で構成します。議員はメンバーに入っていない。

● 商工会には「リニアを活かした地域づくり委員会」があり、補助金を出して協議してもらっているが、新たな協議会との関係は

● 商工会は関係団体

と考えていますが、商工会の内部に置かれた委員会は独自に活動を進めてもらいます。

町が立ち上げる委員会は、商工業者だけでなく、住民も交えた町全体の総合的な活用や町づくりに向けた検討をします。

● 意見
商工会内部にそのような委員会が設置されているなら、町の協議会には参加しなくてもいいと思う。

● リニア対策協議会とリニア活用検討委員会との整合性、調整はどのようにするか。

● それぞれの協議会から起こり得る問題については、よくすり合わせを行い解決していく、問題がある程度整理されたところでない

と、話は進めてはいけないと思います。

● 要望
この活用検討委員会を積極的に進めて、中津川市や飯田市とも協議し、リニアの活用を検討してほしい。

● 地域おこし協力隊

● 地域おこし協力隊の事業の内容は

● 最終年度の隊員のイベント等を計画しています。

● 入湯税の減額

● 大型温泉施設改修計画による入湯税影響期間

● 今年12月から来年4月中旬頃まで休止することです。

● 電算委託料

● 県子育て世帯への生活支援事業では事業全体が78万円で、給付金より委託料が多い。

● 県による低所得世帯の子どもへの給付金

は住民税所得割の非課税世帯で行い、対象は10名を見込んで30万円を計上しました。委託による電算処理経費は、正確に対象者を抽出するためのシステム改修を行い、処理する経費でその結果、委託料が給付金より高くなる見込みとなったものです。

● 改修費はどれくらいか。改修システムは今後使われるのか。

● ほぼ改修費です。この先違った制度が出てきた時に対応可能とする意味もあります。

● 道路愛護作業と保険加入

● 区の道路愛護作業中における草刈り機な

● 改修費はどれくらいか。改修システムは今後使われるのか。

● 町で自治会活動保険に加入しています。事故があった場合は、区長からの連絡により、係が手続きします。

● 作業日の前後の日で行う作業の場合も補償の対象になるのか。

● 区が主催の作業で

令和5年度9月補正予算（9/15決）

一般会計補正予算 2億1,358万2千円を増額
総額 44億7,896万9千円に

● 一般会計・特別会計補正予算（単位：千円）

会 計	補 正 額	補正後の金額
一般会計（第4号）	213,582	4,478,969
国民健康保険特別会計（第2号）	420	338,840
後期高齢者医療特別会計（第2号）	1,041	81,016

● 事業会計補正予算（単位：千円）

会 計	補 正 額	補正後の金額
簡易水道事業会計（第1号）		
収益的収入	△ 36,737	385,437
収益的支出	△ 35,497	376,151
資本的収入	43,300	273,180
資本的支出	43,670	346,396
特定環境保全公共下水道事業会計（第1号）		
収益的収入	901	77,912
収益的支出	901	55,648
資本的収入	2,700	16,100
資本的支出	2,700	50,220
農業集落排水事業会計（第2号）		
収益的収入	740	103,288
収益的支出	740	66,507

Q 中津川市が進めている坂下診療所の民営化についての状況は。

● 坂下診療所の民営化状況

A 令和5年度の税所得割の非課税世帯と家計急変世帯に1世帯当たり2万円を給付し、150件を見込んでいます。

Q 県の価格高騰特別対策支援金事業は300万円の予定だが対象世帯は。

● 県価格高騰特別対策支援金事業

あれば保険の対象になります。



毎年の道路愛護作業

Q ニホンザルの被害

A 今年の補正は実績から年間分を見込んで計上したものです。駆除実績はイノシシ39頭（昨年比16頭減）、ニホンジカは59頭（15頭増）、ニホンザルは17頭（8頭増）です。

Q 有害鳥獣の駆除報奨金が500万円近く計上されているが、実績は。

● 有害鳥獣対策

A 国の動向や価格の水準を確認しながらその時点で考えたいと思います。

Q 「福祉灯油券」の検討を

● 「福祉灯油券」の検討を

A 岐阜県東濃圏域の地域医療構想調整会議が7月と8月に2回開催され、その中で中津川市が民営化の方針を示したと聞いています。

A 県が補助事業も活用して実施しています。昨年は実施できなかったが、今年度は整備の準備を進めている場所があります。

Q 緩衝帯整備を希望する場合は町に申請すれば良いのか。

● 山林協会負担金

A 広報紙や懇談会の資料で周知をしています。町に相談し準備の整ったところから進めます。

Q 林業振興費の山林協会負担金等の230万2千円の内容は。

● 山林協会負担金

A 今年度の国、県で行う事業費に応じて算定され、第1回目の算定に伴って計上しています。

A が増え、いままで出なかったところにサルが出ている。山と里との緩衝帯整備は進んでいるか。



妻籠での蘭川災害復旧

● 蘭川災害復旧工事

Q 簡易水道の蘭川災害復旧工事の場所と内容は。

● 蘭川災害復旧工事

A 町道妻籠町中線の八起前での崩壊箇所を県の河川工事で復旧することになり、ここに水道関係の施設が必要となります。

Q 小水力発電所の避雷針の設置は。

● 小水力発電所の避雷針の設置は。

A 避電針は設置していますが、昨年と今年7月に計器等に被雷しており、原因の調査と対策を検討しています。

Q 国道256号交差点改良事業

● 国道256号交差点改良事業

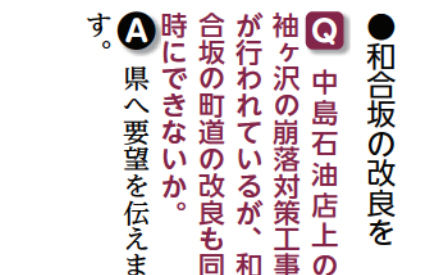
A 現在、用地交渉を進めており、今年度中には工事着手できると考えています。

Q 蘭・尾越の国道256号交差点改良事業の進捗状況は。

● 蘭・尾越の国道256号交差点改良事業

A 現在、用地交渉を進めており、今年度中には工事着手できると考えています。

Q 中山道の下り谷の災害復旧は1億3千万円と大きい。工事の内容、工期、また観光客の通行は。



SL公園上の和合坂

● 和合坂の改良を

Q 中島石油店上の袖ヶ沢の崩落対策工事が行われているが、和合坂の町道の改良も同時にできないか。

● 和合坂の改良を

A 県へ要望を伝えま

Q 町道坂の下線測量設計委託業務費が大幅に減額されているが、その原因は。

● 町道坂の下線測量設計委託業務費が大幅に減額されているが、その原因は。

●北部わらび沢橋調査

Q 北部のわらび沢橋の調査はどこまで進んでいるか。

A 今回の補正の橋梁維持経費で対応し、今年には測量のみで、来年以降検討していきたいと思っています。



北部わらび沢橋の現況

●悲しめる乙女の像

Q 「悲しめる乙女の像」が載る岩の下側には空洞があり危険ではないか。祭壇も含めて整備が望まれる。

A 検討します。

●中学校の部活バス

Q 部活動の利用などで通学バス借上料300万円の増とある。生徒たちの活躍は大変励みになり応援したい。経費を考えて、空いていれば町のマイクロバスやワゴン車を利用してはどうか。

A 木曽郡の大会がなくなり、中信地区の大会参加になったことなどにより増額しています。子どもの人数も減っているため、ワゴン車の利用についても検討したいと思っています。

議会と町の意見交換

全員協議会

(9月20日審議の一部を報告)

全員協議会とは…

議会独自の運営協議、議員間の意見調整、本会議審議中における協議、執行機関と議会側の意見調整などを行うための場で、議会の開会中及び閉会中にかかわらず議長の招集により開催し、公開を原則とします。

●…質問
○…意見・要望など

証明書のコンビニ交付導入に伴う発行手数料の減額措置についての質問・意見

導入目的や仕組み

●コンビニ交付に誘導する目的は役場の事務の軽減ではないか。人口の少ない町でコンビニ誘導を図る大きなメリットがあるか。

●経費がかかり手数料を下げる理由があるのか。

●コンビニ交付はJLISが全部処理するのか、職員の事務的負担が増えるのはどういうことか。

○委託の年間経費600万円とは別に、住民の手数料から1件当たり117円がJLISに払われ、残りが町に入る仕組みになる。

手数料の設定

●コンビニ発行も町の窓口発行も、原価は一緒だと思うが、違った料金で販売をするということに違和感はないか。

●手数料350円の根拠が何か、手数料算定の説明を。

○現行の手数料は自立で平成16年に設定したが、かなり時間も経ち見直してもいい。

○窓口手数料も同様に値引いてもいいのではないか。

○住民票、印鑑証明の窓口交付の金額を300円にし、コンビニはさらに50円マイナスに。

○木曽郡内を基準に、50円～100円の範囲で値引くのがいい。

○町だけ違う動きをする正当な理由があればいいが、現状では近隣市町村並みに合わせるのが妥当ではないか。

○費用対効果からみてそれほどメリットはないという回答があり、変更無しでやれるのではないか。町独自の考え方でいい。

証明書のコンビニ交付導入に伴う発行手数料の減額措置

【説明概要】

町において証明書のコンビニ交付導入を行う。その際、一定程度減額した手数料の設定を行い、窓口交付からコンビニ交付への誘導を図りたい。

先行事例では減額によりコンビニ交付利用が高まるという状況があり、現在戸籍450円、諸証明書350円を1件当たり50円程度を減額する手数料案を考えている。今回の全員協議会での意見を参考し、12月議会で手数料改正を予定している。

(注) JLISとは、地方公共団体情報システム機構の略称で、2014年に設立した国と地方公共団体が共同で管理する法人である。マイナンバーカード関連、住民基本台帳ネットワーク、コンビニ交付サービス、総合行政ネットワーク(LGWAN)等、システムの開発や運営を担っている。

報告 総務文教常任委員会の町内施設の視察

令和5年7月10日、南木曽町社会福祉協議会のデイサービスセンター、なぎそこども園、放課後子ども教室「なぎそっこ」の町内施設3ヶ所を視察しました。総務文教常任委員会の委員と他の議員合わせて8名が参加しました。

デイサービスセンター

社協の長瀬会長と古沢事務局長とが対応し、①施設の老朽化への対策：ボイラーは町の支援で昨年度から更新されてきているが、待合場所が狭い沐浴設備の更新を。②新型コロナウイルスについて：流行により収入減となり回復に向かっているが厳しい運営であり、利用者家族に選んでもらえるような施設を目指し、利用者を増やしたい。③人材の確保、処遇の改善、安定した経営の継続への心配などの課題が示されました。

なぎそこども園

開園して2年目のなぎそこども園では、園長から統合後の様子や運営方針などの説明を受け、現状では特に大きな問題はないとのこと。相撲が人気で、年長組では四股名（しこな）を付けた元気な取り組みを見学、どの子も元気に挨拶や手を振って迎えてくれ、統合後の園の状況が良い方向であると感じました。

放課後子ども教室

教室のスタッフからの説明では、以前より利用者が少なくなったが、長期休みには増えるとのこと、増築で広くなり勉強しやすくなったこと、課題として見守りの人材確保が大変だという声がありました。

（文責：高橋進委員長）



報告 リニア新幹線対策特別委員会での協議

令和5年7月3日、南木曽町役場大会議室で、委員（9名）、議長、町長、もっと元気に戦略室、議会事務局長の出席で委員会を開催しました。議長からは、尾越工区の具体的な工事に伴うリスクの軽減を真摯に話し合いたい、町長からは、今後やるべきことを考え、地域にとって良かったと思える工事を望みたいなどのあいさつがありました。

審査内容

第37回南木曽町リニア中央新幹線対策協議会に向けての意見集約で、1）尾越周辺に示されている発生土置き場候補地の計画規模について、2）中央アルプストンネル（尾越）の掘削工事に係る工事説明会の内容、3）水道水源予備の処置による工事の状況などの説明がありました。

説明への主な質問

Q 尾越工区の保全計画の申請は県環境部、盛土条例の申請は木曽建設事務所に提出すると思うが、県の審査内容が不明である（書類審査だけでOKとするのか）。また、環境と土木関係の審査は同時に行うのか。

A JR東海については不明、木曽建設事務所の審査については問い合わせ中。

Q 申請を行うと県より町長に申請の報告がある。町の見解を県に提出するが、どのように意見をまとめていくのか。

A 対策協議会の意見を参考にする。設計図面が出てきた段階で、知識人からの意見をもらう。町民からの意見提案等はパブリックコメントを行い、それを県に上げたいと考える。

Q 候補地の採掘場跡の当初の契約と基金についての処理は。

A 工事終了後に緑化が条件になっている。基金積立で現在630万円ある。

対策協議会に向けての質問項目の整理

①要対策土の仮置き場を旧木曽路館跡地としているが、健全土の仮置き場と同一場所であるのはなぜ。

②町道起線と国道256号のT字路周辺の交通安全対策は検討が必要ではないか。

③簡易水道以外の、水資源の渇水・減衰の補償等はどうなるのか。

以上の3点を、7月5日のリニア対策協議会での質問としたい。（文責：赤坂孝委員長）

報 告 松塩筑木曾老人福祉施設組合 7 月臨時議会

7 月 25 日に開催された 7 月臨時会の主な内容は次のとおりです。

●条例改正について

組合議会が保有する個人情報の保護に関する条例が制定されました。

●役員の改選について

議 長 古畑秀夫氏（塩尻市議会議員）
副議長 吉村幸代氏（松本市議会議員）

全員協議会

●施設入所定員の見直しについて

第 9 期の定員数が、今議会の直前に開催された理事会において下表のように見直されました。

議会運営委員会（給与検討委員会兼務）は 9 名の委員が指名され、委員長には塩尻市議会副議長の赤羽誠治氏が選任されました。

公平委員会委員・監査委員各 1 名の選任もありました。

介護保険事業計画期		第 8 期			第 9 期								
年度		令和 5 年度			令和 6 年度			令和 7 年度			令和 8 年度		
地域	施設名	長期	短期	合計	長期	短期	合計	長期	短期	合計	長期	短期	合計
木曾郡	サニーヒルきそ	70	5	75	55	5	60	55	5	60	55	5	60
	なんてんの里	62	8	70	55	5	60	55	5	60	55	5	60
	木曾あすなる荘	50	5	55	43	5	48	40	5	45	40	5	45

報 告 令和 5 年度 木曾郡町村議会議員総会

8 月 1 日、令和 5 年度木曾郡町村議会議員総会を上松町ひのきの里総合文化センターで開催しました。

来賓として郡内 6 町村長、木曾地域振興局長、木曾建設事務所長らが列席し、総会後の研修会では「木曾圏域の医療を取り巻く現状」を西垣明子木曾保健福祉事務所長から講演していただきました。

総会提出議題

1. 若者支援と子育て支援の一体化で少子化対策を進めることについて（木曾町）
2. 森林産業の持続的発展及び移住定住・起業支援推進について（上松町）
3. 高齢者も安心して暮らせる木曾地域の推進について（南木曾町）
4. 山林の安全対策と維持管理について（木祖村）
5. 空き家対策に関する支援の充実強化について（王滝村）
6. 木曾谷の教育振興について（大桑村）
7. 木曾地域の道路交通網の整備と木曾川の治水について（議長会）

※注：（ ）内は議題提案町村など



講演する西垣保健福祉事務所長



各町村からの議題提案

聞いて

私の思い



北部地域振興協会会長
谷口 洋さん

この先の私の夢

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、一時収束するように思えましたがまだまだ感染は収まらず、私たちの生活を脅かしています。

私の住む北部地区は、本谷区、岩倉区、戸場区、十二兼区の4区からなり各区戸数は様々ですが、町内では今のところまだ空き家になっている所は少ないように思います。

この10年先を見てみると高齢化が進み、住民が減少していくばかりで住民が増加する要素がないのが現実です。

農業の継続を目指して

農協を退職してから他職種に再就職した私は週末に農業をしています。我が家においてもですが、少子高齢化問題が深刻化するなかで、農業後継者がおらず農業を行わない家が増え、耕作放棄地が増加していくのではと予測しています。

この先、年をとっても農地を放棄せず耕作を継続することができるよう、山間部の特色を生かした農業方法を、町や地域住民で考えていけたらいいなと思います。

議会の傍聴にお越しください

定例会は年4回（3月・6月・9月・12月）開催されます。詳しい日程などについては、町ホームページ、音声告知端末放送、ケーブルテレビなどでお知らせしています。

※9月の議会は2日間で9人の傍聴がありました。



編集後記

暑かった夏も終わり、過ごしやすいい季節となりましたが、気候の変動や、物価高騰など受け入れ難い変化が今多くあります。また、コロナ感染症の5類移行も大きな時代の変化となり、町に多くの観光客が戻って来ましたが、観光関連事業者も急激な変化に対応できず、人手不足等で当惑しています。

9月定例会では、行政より令和4年度の決算報告があり、議会で審議しましたが、町の財政も急激な人口減少などで大変苦しい状況です。しかし、変化が激しく不安定な時こそ、町民の皆様の生活を守るため、議会も頑張らなくてはなりません。激変する時代への対応を含め、議員の一人としてが努力すべく気を引き締めた所です。

議会へのご意見をお待ちしています。

議会報編集委員

坂本 満
伊藤 寿子
田中 晃(記)
早川 親利